

日商簿記 1 級&全経上級ダウンロード講座 工原 No.10【標準原価計算の基礎】

収録日：平成 25 年 8 月 29 日

【出題実績】

日商簿記 1 級過去問
全経簿記上級過去問

	検定簿記講義	サク	スッキリ	教科書
ページ数	20	41	24	
標準原価計算の計算手続	×	◎	◎	
差異分析	◎	◎	◎	
勘定記入	◎	◎	◎	
修正パーシャルプラン	◎×	◎	◎	

◎説明あり、例題あり ○説明あり、例題弱い、△説明弱い、例題あり、×説明弱い、例題弱い
（「弱い」は「ない」を含みます）

●他の箇所では説明又は例題あり

日商では頻出（120~128回は7回連続出題）・全経はあまり出題されていなかったが170回で161回以来の出題がありました。

という訳で、しっかり確認しておく必要があります。

日商1級全経上級では標準原価計算の応用論点が問われますが、応用論点をカバーする為には、日商2級レベルの基礎概念をしっかり理解しておく必要があります。

U-TUBE 無料動画ではレジュメで説明します。

ダウンロード講座では、日商1級125回の過去問を説明します。

標準原価計算の概要

本日は2級論点の復習ですが、基礎の理解が来週以降の本試験対策につながります。

標準原価計算の計算手続き



どんな問題でも、この流れを意識して下さい

原価標準	仕掛品		実際原価
材料 @200×0.4kg=80	600	500	
労務 @300×0.4h=120	(550)		
製造間接費 @400×0.4h=160 (内固定費 300円)		100	
		(50)	
合計 360			

差異認識		
材料	$\frac{200 \times 0.4 \text{kg} \times 600}{240 \text{kg}} = 48,000$	} 53,900 (@220×245kg)
労務費	$\frac{300 \times 0.4 \text{h} \times 550}{220 \text{h}} = 66,000$	
間接費	$\frac{400 \times 0.4 \text{h} \times 550}{220 \text{h}} = 88,000$	
合計	202,000	} 213,570

基準操業度を 230h とする

差異分析

	混合差異

なぜ、このような線を引くか考えてみよう

混合差異はなぜ価格差異に含めるのか？

価格差異は（現場の責任？ 現場以外の責任？）

数量差異は（現場の責任？ 現場以外の責任？）

現場の責任に外的要素を加えてもいいでしょうか？

こういうイメージを強くもって下さい

次のページから記帳方法を確認します

差異の金額をBOX図で管理し、どの金額が標準原価として転記されているかを確認してゆくと、より理解がすすむと思います。

